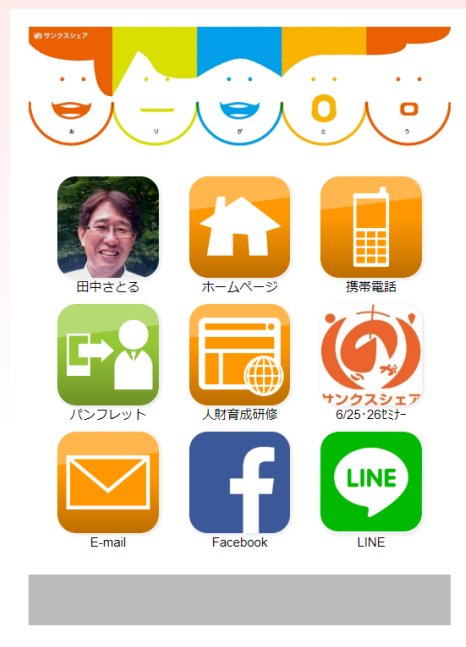


放課後等デイサービス支援員の実践力向上研修（基礎基本編）

～ 定型発達・障がい特性 ～



R7.7.3
AELL



右のQRコードから上記のページの表示をお願いします。

合同会社サンクスシェア
代表理事 田中 さとる



定型発達



発達の特長（厚生労働省）

1 乳幼児期

2 学童期

小学校低学年・中学年・高学年

3 青年前期

中学校

4 青年中期

高等学校

定型発達の2つの視点

課題分析・分類のポイント

【2つの面から特質を把握する】

① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

② 個人的特質の理解

- ・ 認知的特質
- ・ 性格的特質
- ・ 態度一意欲の特質

① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

さまざまな発達理論

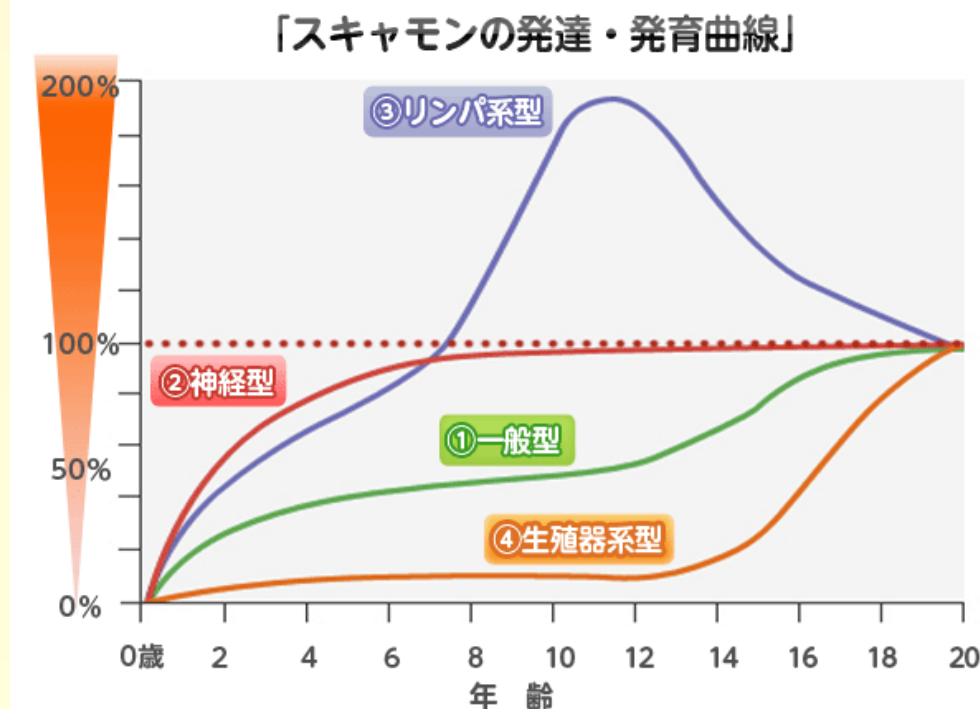
- ・フロイトの心理学的発達理論
- ・ゲゼルの成熟優位説
- ・行動主義の学習理論
- ・ピアジェの発生的認識論
- ・バンデューラの社会的認知理論
- ・エリクソンの社会的発達理論 など

① 発達の特質の理解

【身体障害の種別】

- ・ **身体的発達**
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

- ・ 視覚障害
- ・ 聴覚障害
- ・ 音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害
- ・ 肢体不自由
- ・ 心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害



① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ **知的発達**
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

- ・ 言語理解
- ・ 知覚推理
- ・ ワーキングメモリ
- ・ 処理速度

WISC-IV

- ・ 結晶性領域
- ・ 流動性領域
- ・ 記憶領域
- ・ 論理推理

田中ビナーV



SACCESS・BELL
Scientific access for the better life

FAQ 会社
検索
WWWを検索

▶ 医療関係検査 ▶ 個別式検査 ▶ 学校用検査 ▶ 企業用検査 ▶ 書籍紹介 ▶ 特別支援関連
▶ 医科診療報酬点数適用心理検査 ▶ コミュニケーションツール ▶ 箱庭療法・心理療法

ご注文 見積のご依頼 資料のご請求 カタログダウンロード お問い合わせ

商品とサービス紹介

HOT!

▶ **医科診療報酬点数適用心理検査**
こちらから一覧をご覧ください。

▶ **医療関係検査**
クリニック、病院関係(心療内科、小児科)でご利用いただいている検査をご紹介します。

➤ 心療内科関係の検査
➤ 小児科関係の検査
➤ リハビリ関係の検査

▶ **個別式検査**
医療・教育などの臨床・研究で使用する検査をご紹介します。

WAIS-IV知能検査
8月30日発売！ご注文承ります。
画像提供: 日本文化科学社

SRS-2対人応答性尺度
日本文化科学社より2017年12月20日発売！自閉スペクトラム症(ASD)と関連する症状を測定する検査です。
画像提供: 日本文化科学社

日本版 WPPSI-III知能検査
日本文化科学社より2017年12月22日発売！
画像提供: 日本文化科学社

CCC-2子どものコミュニケーション・チェックリスト
日本文化科学社より2016年11月発売！コミュニケーションにおける言語的な側面を評価します。
画像提供: 日本文化科学社

知能検査	投影法検査
親子関係検査	不安・ストレス関係検査
発達関係検査	老人精神機能測定・リハビリ関係検査
言語関係検査	精神作業検査
職業適性・興味検査	健康調査・メンタルヘルス関係
言語訓練・失語症・教材セット	スポーツ競技関係検査
性格・人格検査	読書力検査

LD・ADHD等関連用語集【第4版】

MEPA-R活用事例集

DN-CASの解釈と事例

自閉症治療の到達点

各種検査の
カテゴリ・領域
を知る

定型発達の基礎知識

【特質を考える視点（①発達）】

検査名	対象年齢	検査カテゴリ等
新版K式発達検査	0～13	「姿勢・運動」「認知・適応」「言語・社会」
田中ビネー検査	2～成人	「思考」「言語」「記憶」「数量」「知覚」
ウェクスラー式知能検査		「言語理解」「視覚空間認識」「流動性推理」「ワーキングメモリ」「処理速度」 W P P S I (3～7.3) W I S C V (6～16) W A I S (16～)
K A B C - II	2.6～ 12.11	「認知(継次 同時 学習 計画)」「習得(語彙 読み 書き 算数)」
D N - C A S 認知評価	5～17.11	「プランニング」「注意」「同時処理」「継次処理」
P V T - R 絵画語彙発達	3～12.3	「語彙理解力」
I T P A 言語学習能力	3～9.11	「言葉の理解」「絵の理解」「言葉の類推」「絵の類推」「言葉の表現」
構音検査	幼～成人	「単語」「音節」「音」「文章」
L C スケール	学齢期	「文・文章聴覚理解」「語彙定型句の知識」「発話表現」「柔軟性」「リテラシー」
L D I - R	小1～中3	「基礎学力(聞く 話す 読む 書く 計算 推論 英語 数学)」「行動」「社会性」
描画検査		投影検査の一種：バウムテスト H T P テスト
投影検査		絵や写真への反応：ロールシャッハテスト T A T (主題統覚検査)
質問紙検査		質問への回答から：Y G 検査 M M P I (ミネソタ多面人格目録) など
作業検査法		作業の結果から：内田クレペリン検査 ベンダーゲシュタルトテスト

① 発達的特質の理解

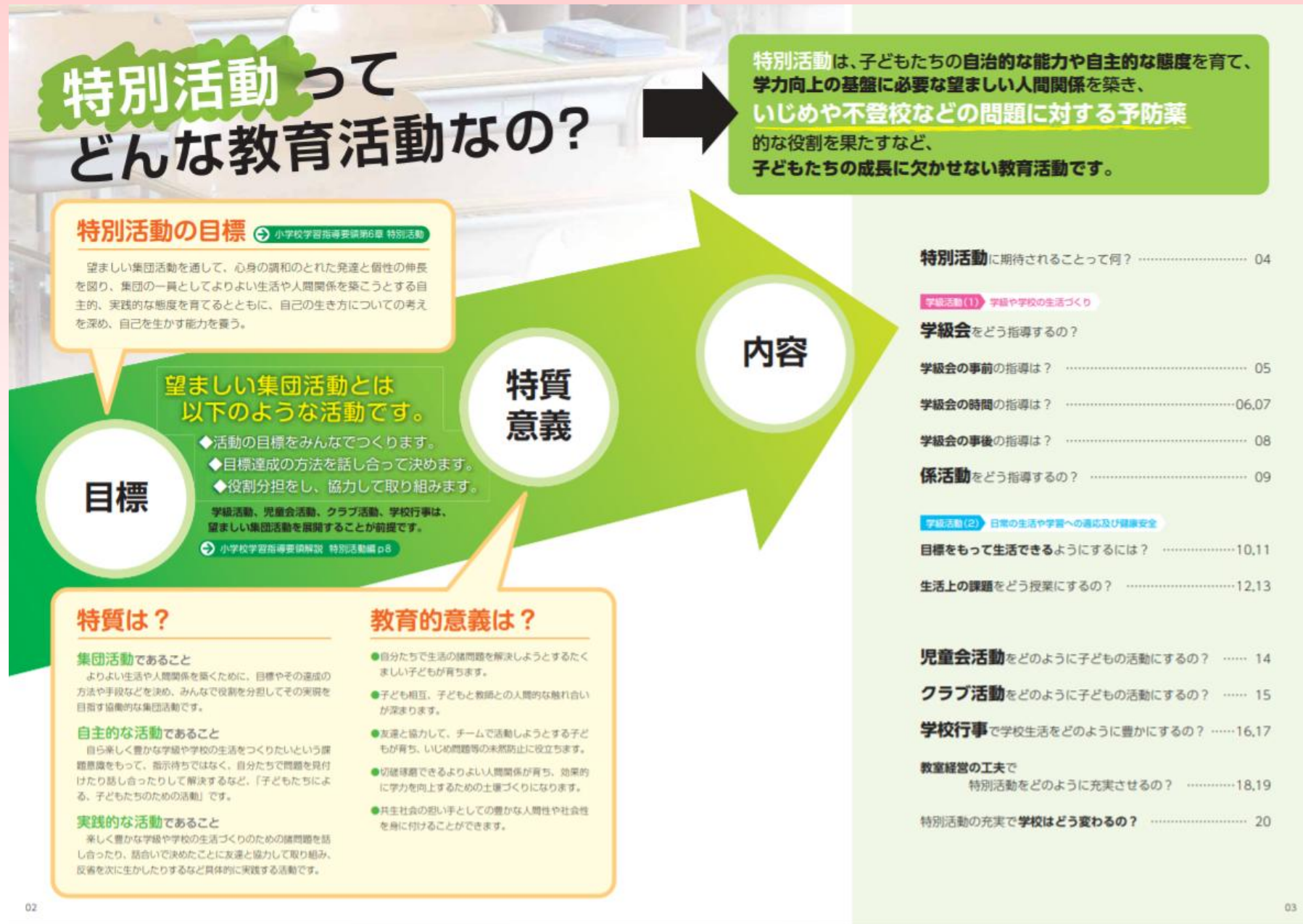
- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ **社会性の発達**
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

- ・ コミュニケーション
- ・ 日常生活スキル
- ・ 社会性
- ・ 運動スキル
- ・ 不適応行動

Vineland-II

- ・ 身辺自立
- ・ 移動
- ・ 作業
- ・ コミュニケーション
- ・ 集団参加
- ・ 自己統制

S-M社会生活



【特別活動のねらい】

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

日常生活の指導 年間計画

【目標】

- ・ 1 「基本的生活習慣」…日常生活に必要な身辺自立をする
- ・ 2 「健康・安全」…健康で安全な生活をする
- ・ 3 「遊び」…友達とかかわりをもち、きまりを守って遊ぶ
- ・ 4 「交際」…身近な人と自分とのかかわりが分かり、簡単な応対などをする
- ・ 5 「役割」…集団活動に参加し、簡単な役割を果たす
- ・ 6 「手伝い・仕事」…日常生活で簡単な手伝いや仕事をする
- ・ 7 「きまり」…日常生活に必要な簡単なきまりやマナーを守って行動する
- ・ 8 「日課・予定」…日常生活でおよその予定が分かり、見通しをもって行動する
- ・ 9 「金銭」…簡単な買い物をして金銭の扱いに慣れる
- ・ 10 「自然」…自然や生き物への興味や関心を高める
- ・ 11 「社会の仕組み」…家族や身近な地域の様子に興味や関心をもつ
- ・ 12 「公共施設」…身近な公共施設や公共物などを利用し、その働きを知る

※段階別目標について

- 1 段階…教師と一緒に行う
- 2 段階…教師の援助を受けながら
- 3 段階…自分で

基本的生活習慣（きほんてきせいかつしゅうかん）

基本的生活習慣は、子どもが心身ともに健康に育つために生活の基盤となるもので、日常生活の基本となる食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱の5つの生活習慣のこと。

「まいと」では、食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱の基本的生活習慣に挨拶・片付けを加え指導しています。

小学校就学までの目標。

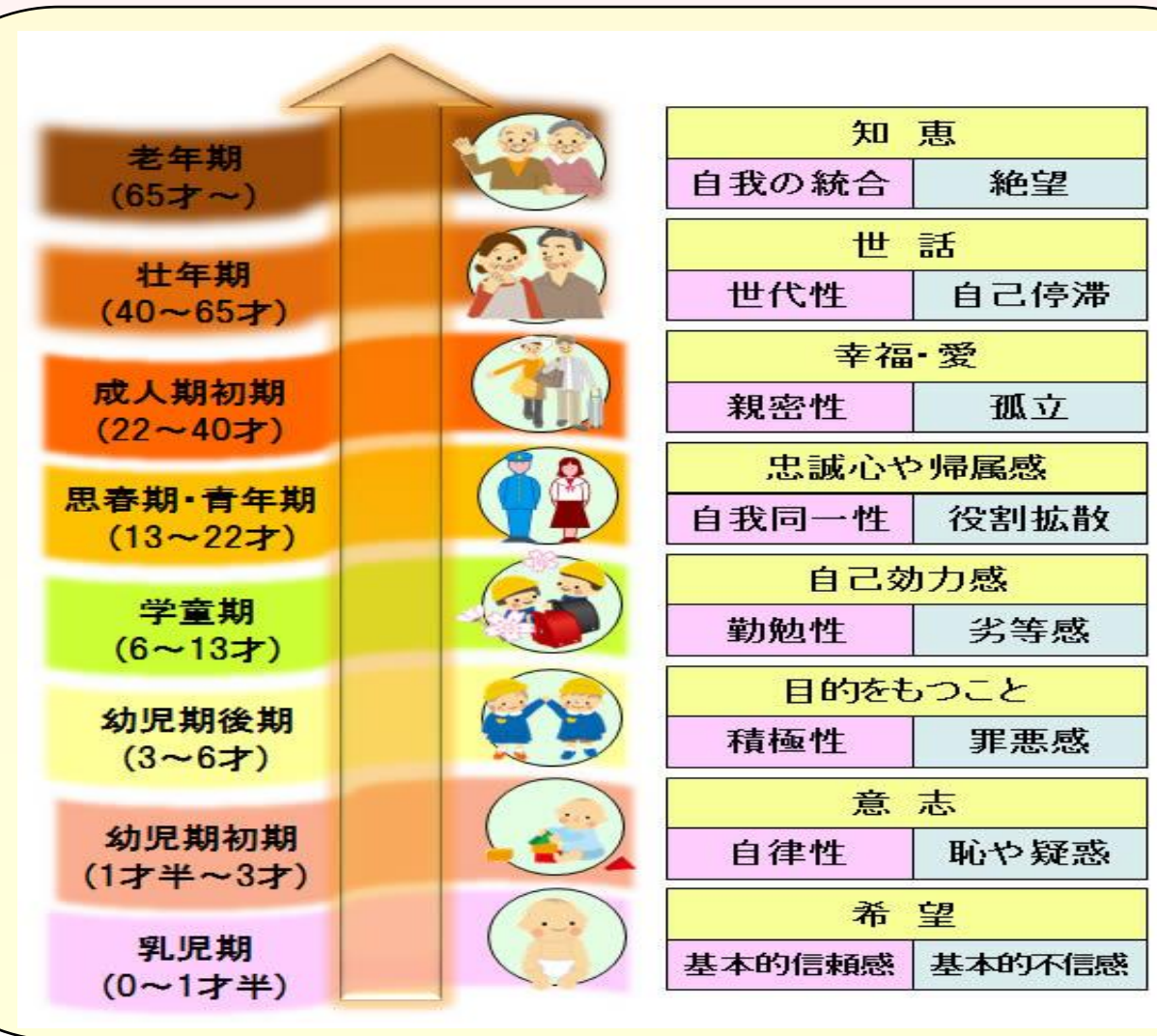
- * 食事は、箸を使って自立して食事をする、好き嫌いなく食べることができるようにする。
- * 睡眠は、決まった時間に寝起きし質のよい睡眠がとれるようにする。
- * 排泄は、一人ででき後始末も一人でできるようにする。
- * 清潔は、手洗い、うがい、歯磨き、入浴など、体の清潔を自ら保つことができるようにする。
- * 衣服の着脱はボタン・ファスナー・リボンなどがあっても一人で着脱できるようにする。
- * 状況にあった挨拶ができるようにする。
- * 身の回りの片付けが一人でできるようにする。

【特質を考える視点（①発達）】

エリクソンの発達段階

① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ **自我の発達**
- ・ 基本的欲求の発達



定型発達の基礎知識

【特質を考える視点（①発達）】

小学校			
小学校 1・2 年	小学校 3・4 年	小学校 5・6 年	中学校
1 主として自分自身に関すること			
(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣・節度節制	(1) 基本的な生活習慣・調和のある生活
(2) 勤勉努力	(2) 勤勉・粘り強さ	(2) 希望・勇気・努力	(2) 希望・勇気・強い意志
(3) 善悪の判断・勇気	(3) 善悪の判断・勇気	(3) 自由・自律・責任	(3) 自主自律・誠実・責任
(4) 正直・明朗	(4) 正直・明朗	(4) 誠実・明朗	(4) 真理愛・理想の実現
	(5) 個性の伸長	(5) 真理愛・創意工夫	(5) 向上心・個性の伸長
		(6) 個性の伸長	
2 主として他の人とのかかわりに関すること			
(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀
(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 人間愛・思いやり
(3) 友情	(3) 信頼友情	(3) 信頼友情・男女協力	(3) 信頼友情
		(4) 寛容・謙虚	(4) 異性の理解
(4) 感謝	(4) 尊敬・感謝	(5) 尊敬・感謝	(5) 寛容・謙虚
			(6) 尊敬・感謝
3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること			
(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重
(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・環境保全	(2) 自然愛・畏敬の念
(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 弱さの克服・生きる喜び
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること			
(1) 規則尊重・公徳心	(1) 規則尊重・公徳心	(1) 公徳心・規則尊重・権利義務	(1) 法の遵守・権利義務
		(2) 公正公平・正義	(2) 公徳心・社会連帯
		(3) 役割と責任の自覚	(3) 正義・公正公平
(2) 勤労	(2) 勤労	(4) 勤労・奉仕	(4) 役割と責任の自覚
(3) 家族愛	(3) 家族愛	(5) 家族愛	(5) 勤労・奉仕・公共の福祉
(4) 愛校心	(4) 愛校心	(6) 愛校心	(6) 家族愛
(5) 郷土愛	(5) 郷土愛	(7) 郷土愛・愛国心	(7) 愛校心
	(6) 愛国心・国際理解	(8) 国際理解・親善	(8) 郷土愛
			(9) 愛国心
			(10) 国際理解・人類愛

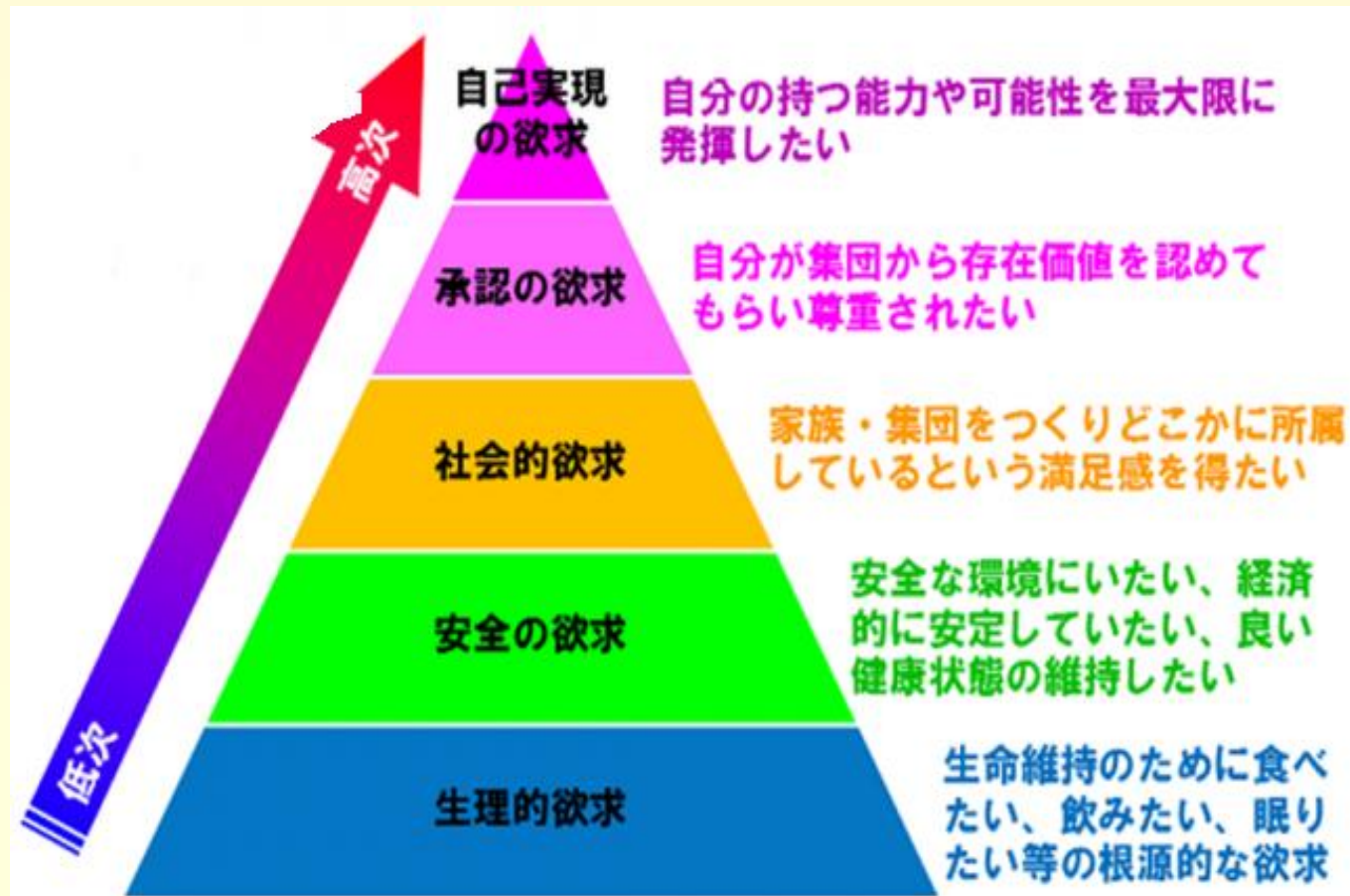
【道徳のねらい】

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの**道徳性を養うこと**とする。

① 発達の特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

マズローの欲求 5 段階説



定型発達の2つの視点

課題分析・分類のポイント

【2つの面から特質を把握する】

① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

② 個人的特質の理解

- ・ 認知的特質
- ・ 性格的特質
- ・ 態度一意欲の特質

② 個人的特質の理解

- ・ 認知的特質
- ・ 性格的特質
- ・ 態度―意欲の特質

(知能・学力・認知及び学習のスタイル)

学習指導要領

確かな学力

基礎・基本を確実に身に付け、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、
主体的に判断し、行動し、
よりよく問題を解決する資質や能力

生きる力

豊かな人間性

自らを律しつつ、
他人とともに協調し、
他人を思いやる心や感動する心
など

健康・体力

たくましく生きるための
健康や体力

② 個人的特質の理解

- ・ 認知的特質
- ・ 性格的特質
- ・ 態度—意欲の特質

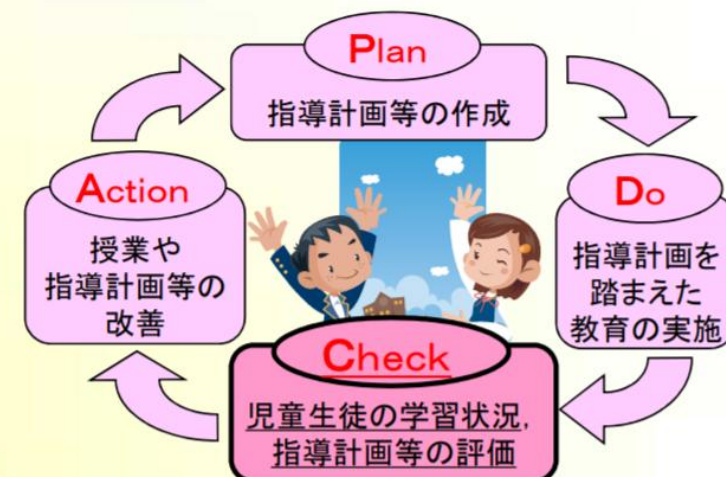
(知能・学力・認知及び学習のスタイル)

学力の3要素
(学校教育法)
(学習指導要領)

知識及び技能

思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度



② 個人的特質の理解

・ 認知的特質

・ 性格的特質

・ 態度—意欲の特質

(性格特性・人間関係)

- ・ 外向性
- ・ 協調性
- ・ 良識性
- ・ 情緒安定性
- ・ 知的好奇心

主要 5 因子検査

小児用エゴグラム 

- ・ 社会的機能を果たそうとする自我
- ・ 他人を養い育てる自我
- ・ 論理的・合理的に思考する理性的な自我
- ・ 生まれながらの自分を自由に発揮する自我
- ・ 他人の顔色をうかがい順応していく自我

② 個人的特質の理解

- ・ 認知的特質

- ・ 性格的特質

- ・ 態度-意欲の特質

興味・関心

目標意識

知的好奇心

競争原理

強化子

成功感

社会的動機 

経過・成果意識

自己動機付け

障がい特性





▶ 視覚障害

全く見えなかったり、文字等がぼやけて読めなかったりする障害です。



▶ 聴覚障害

音を感じたり、会話を聞き取ることが難しくなる障害です。



▶ 肢体不自由

病気やケガなどにより、体の一部もしくは全体に起こる障害です。



▶ 発達障害

自閉症や学習障害など、脳機能の発達に関する障害です。



▶ 内部障害

内臓の機能や免疫機能が弱まるなど、体の内部に起こる障害です。



▶ 知的障害

知的機能の障害が発達期にあらわれ、日常生活を送る上で様々な不自由が生じる障害です。



▶ 精神障害

精神機能に障害が生じ、日常生活や社会参加が困難になる障害です。



▶ 高次脳機能障害

脳の一部を損傷したことにより、思考や言語など脳機能の一部に不自由が生じる障害です。

障がい特性【視覚障害】

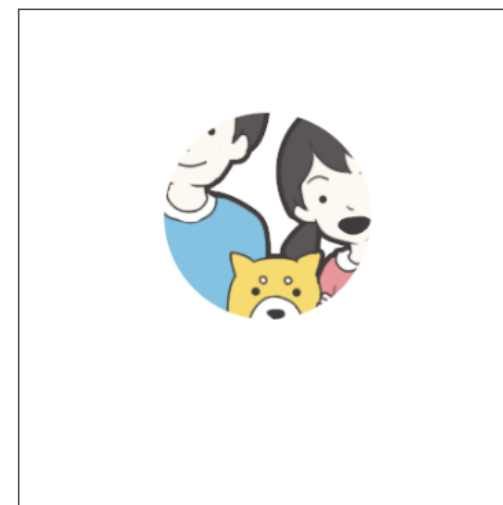
ひとことで視覚障害と言っても、様々な見え方があります。

- ・まったく見えない、
- ・文字等がぼやけて読めない、
- ・物が半分しか見えない（図A）、
- ・望遠鏡を通してのようにしか見えない（図B）などです。

そのため、文字を読むことはできても、歩いているときに障害物にぶつかってしまう方や、障害物を避けてぶつからずに歩くことはできても文字は読めない方もいます。



図A：物が半分しか見えない



図B：望遠鏡を通してのようにしか見えない

障がい特性【聴覚障害】

聴覚障害には、伝音難聴、感音難聴、伝音難聴と感音難聴の両方を併せ持つ混合難聴の3種類があります。

伝音難聴は常に耳栓をしているような状態で、音が聞こえにくくなるのが特徴です。中耳炎など医学的治療で改善するものも多くあります。

感音難聴は「音」だけでなく「言葉」も聞こえづらくなるのが特徴です。加齢のために起こる老人性難聴は感音難聴のことをいいます。

全く聞こえない方もいれば聞こえづらい方もいて障害の程度や状態によって様々な生活上の不自由さがあります。



障がい特性【肢体不自由】

肢体不自由とは、病気やケガなどにより、
上肢・下肢・体幹の機能の一部、
または全部に障害があるために、

「立つ」「座る」「歩く」「食事」「着替え」
「物の持ち運び」「字を書く」など、

日常生活の中での動作が困難になった状態をいいます。



障がい特性【内部障害】

内部障害とは、体の内部に障害があることをいいます。外見からは分からないのですが、疲れやすかったり、トイレに不自由したり、タバコの煙で苦しくなったりするなど、周囲の方の理解と配慮を必要とする障害です。

心臓機能障害：全身に必要な血液を送り出す心臓の機能が低下した状態のことです。心臓の収縮のリズムが不規則な人は「ペースメーカー」という医療機器を胸部に埋め込んでいます。

腎臓機能障害：病気により腎臓の働きが悪くなった状態のことです。体に有害な老廃物や水分を排泄することができなくなり、不必要な物質や有害な物質が体の中に蓄積してしまいます。

呼吸器機能障害：肺の機能が低下したことにより、酸素と二酸化炭素の交換がうまくできなくなる状態のことです。呼吸器機能障害のある方の中には、酸素吸入するために、常に酸素ボンベを携帯している人もいます。

肝臓機能障害：さまざまな原因により、肝臓の機能が低下した状態のことです。それにより、倦怠感（だるさ）、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、出血傾向（あざがしやすい）、易感染性（感染しやすい）、吐血、意識障害などが生じやすくなります。

膀胱・直腸機能障害：尿をためる膀胱、便をためる直腸が、さまざまな病気のため機能低下または機能を失った状態のことです。排泄物を体外に排泄するための、人工肛門・人工膀胱を造設する方（オストメイト）もいます。

小腸機能障害：小腸の広範囲に及ぶ切除や病気によって、小腸の機能が不十分になった状態のことです。消化吸収がうまくできず、通常の経口摂取では栄養維持が困難な方もいます。

ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能障害：HIVウイルスに感染すると、白血球の一種であるリンパ球が破壊され、免疫機能が低下します。そのため、発熱・下痢・体重減少・全身倦怠感などが現れます。特定の病状があらわれるとエイズ（後天性免疫不全症候群）の発症となります。

障がい特性【知的障害】

知的障害の4つの類型

厚生労働省の基準では、IQの値と、適応能力の基準である「日常生活能力水準」の両方を考慮して判定

	生活能力	a	b	c	d
IQ					
I (IQ ~20)			最重度知的障害		
II (IQ 21~35)			重度知的障害		
III (IQ 36~50)			中度知的障害		
IV (IQ 51~70)			軽度知的障害		

画像引用：[厚生労働省「平成17年度知的障害児（者）基礎調査結果の概要」](#)

【概念的領域】：記憶、言語、読字、書字、数学的思考、実用的な知識の習得、問題解決、および新規場面における判断においての能力についての領域

【社会的領域】：特に他者の思考・感情・および体験を認識すること、共感、対人的コミュニケーション技能、友情関係を築く能力、および社会的な判断についての領域

【実用的領域】：特にセルフケア、仕事の責任、金銭管理、娯楽、行動の自己管理、および学校と仕事の課題の調整といった実生活での学習および自己管理についての領域



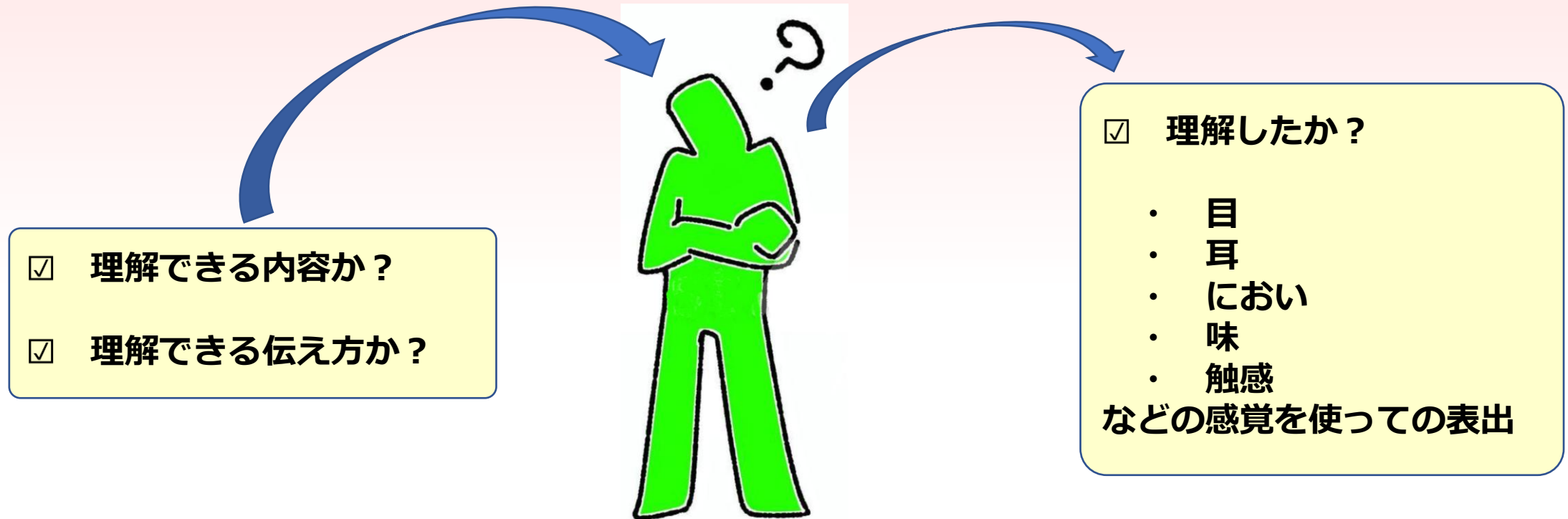
【軽度】 暗算やおつりの計算といった金銭管理、抽象的な思考や文章の読み書き、計画を立てること、優先順位をつけることなどが苦手である場合があります。言葉の使い方やコミュニケーションにおいて、同年代のほかの人より未熟な点が見られることもあります。身の回りのことを行うことに支障はないことが多く、家事や子育て、金銭管理、健康管理上や法的な決断は、支援があればうまくできることが多いようです。

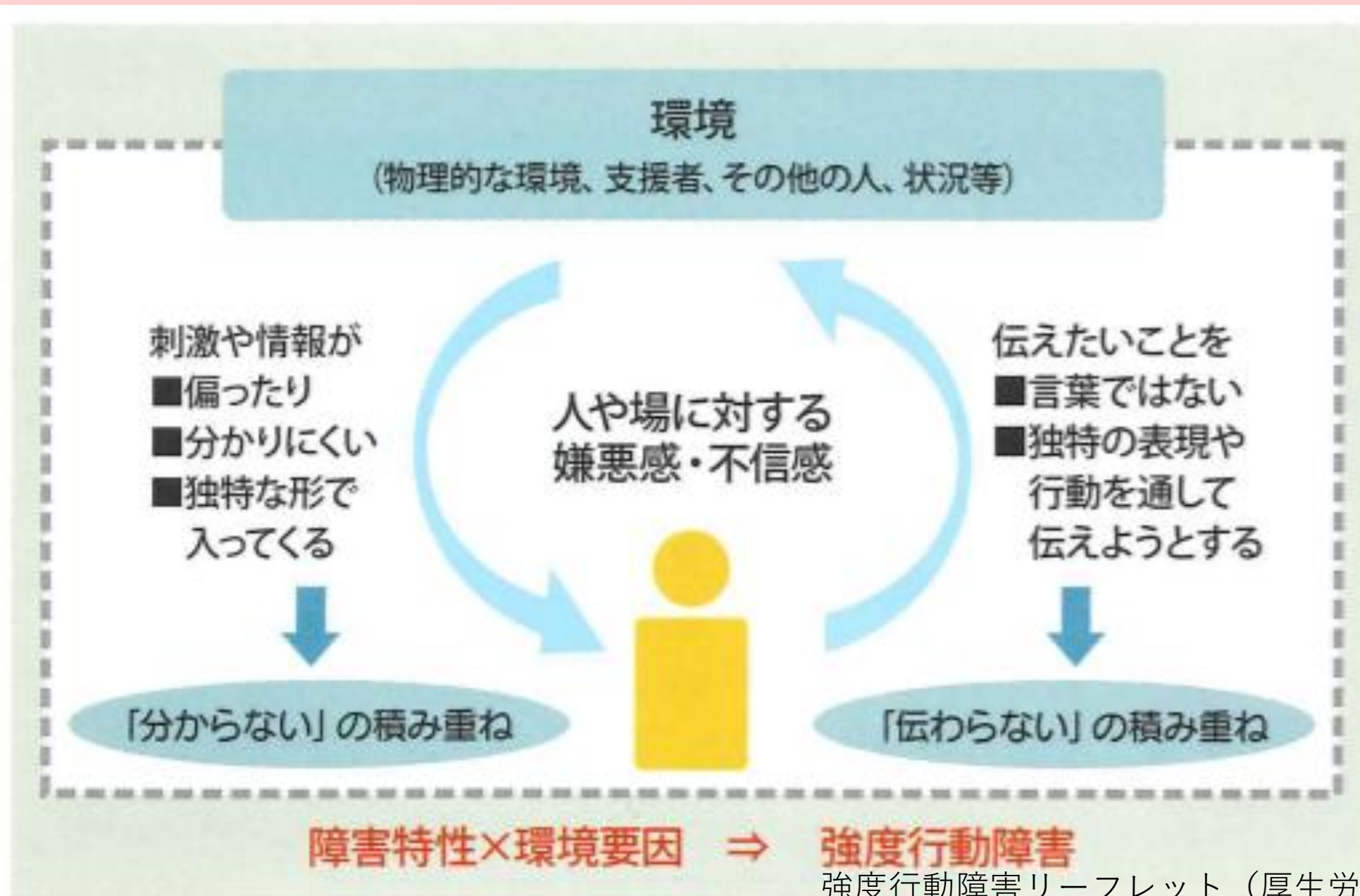
【中等度】 成人でも、学習技能は小学校程度の水準にとどまっていることが多いとされています。複雑な社会的な判断や意思決定、人生における重要な決断を行うときは支援が必要となります。コミュニケーション能力に制限があったり、暗黙の了解とされるような事柄の理解が苦手である場合があります。適切な支援や教育によって、身の回りのことや家事ができるようになる人が多いようです。支援があれば、職種や環境によっては自立して仕事をすることも可能であるとされています。

【重度】 書かれた言葉や数量、時間や金銭などの概念を理解することが難しいため、生涯を通して、食事や身支度、入浴など生活上の広範囲にわたる行為において支援が必要であることが多いようです。コミュニケーションにおいては「今、この場」の状態についての、単語や句を使つての簡単な会話のみ可能です。

【最重度】 会話や身振りを使ったコミュニケーションは、非常に限られた範囲であれば理解できることが多いようです。身振りや絵カードなどのコミュニケーション手段を使つての表出や他者からの感情の読み取りによって、他人と意思疎通を行うことができます。日常生活において他者からの指示や援助を必要とすることが多くなります。

- ① 説明できる：関係性に注目し、一般化・体系化された説明を行うことができる
- ② 解釈できる：意味のある物語を語ることができる
- ③ 応用できる：実際に、多様な文脈で活用できる
- ④ パースペクティブを持てる：批判的に複数の視点から考えられる
- ⑤ 共感できる：経験し、関与し、知覚する
- ⑥ 自己認識を深められる：理解しようとしている自分に対する理解





障がい特性【精神障害】

精神障害とは、精神疾患のため精神機能の障害が生じ、日常生活や社会参加に困難をきたしている状態のことをいいます。

統合失調症：被害妄想・幻聴・興奮・思考の脈絡の乱れ・感情の平板化・意欲や自発性が低下し閉じこもりがちになるなどの症状が見られます。思春期・青年期に発症することが多く、経過が長期にわたるため、福祉的な支援が必要となる人も少なくありません。薬物療法などで改善します。再発予防のためには服薬が有効です。

気分障害（躁うつ病、うつ病、躁病）：うつ状態では、憂うつな気分・意欲の減退・自責的で悲観的な考えが見られ、不眠や食欲低下などの症状もあらわれます。躁状態では、爽快気分、過剰な活動性、誇大的な考え、浪費や性的逸脱などのトラブルの発生が見られます。この病気は薬物療法などで改善します。再発予防に服薬や精神療法が有効です。また、うつ状態では自殺企図に注意が必要です。

神経症・ストレス関連障害：〈**パニック障害**〉強い不安と動悸や呼吸の困難感などが突然出現します。〈**恐怖症**〉対人場面などへの恐怖感が強く生活に支障をきたします。〈**強迫性障害**〉何度も確認しないと気が済まないなど強いこだわりを持つ障害です。〈**心的外傷後ストレス障害（PTSD）**〉犯罪被害などを契機として被害場面が突然思い出されたり、それを想起できる場所を回避したりしてしまいます。

アルコールや薬物依存症：アルコールや覚せい剤などの乱用を、自分の意志だけではやめられず、身体面や社会生活に問題が生じて、周囲も大きな影響を受けます。

認知症：脳萎縮などの明らかな脳の障害のため、記憶力や判断力が低下する状態です。被害妄想や幻視、夜間の興奮などの症状を伴う場合もあります。

パーソナリティ障害：著しい性格の偏りによって、物事の受け取り方や対人関係の取り方、感情や衝動性のコントロールの障害が見られます。本人や周囲の人々に苦痛や困難をもたらしがちです。

障がい特性【高次脳機能障害】

高次脳機能障害とは、脳卒中などの病気や交通事故などで脳の一部を損傷したために、思考・記憶・行為・言語・注意などの脳機能の一部に障害が起きた状態をいいます。

注意障害：集中力が続かない。気が散りやすい。複数のことを同時にできない。

記憶障害：病気やけがの前のことは覚えているのに、新しい出来事を覚えられない。

失語：言いたい言葉が出てこない。聞こえていてもその意味が分からない。

遂行機能障害：段取り良く物事を進めることができない。優先順位がつけられない。

半側空間無視：目では見えているのに、片側に注意がいかないため、見落とししたり、ぶつかったりしやすい。

感情と社会的行動の障害：感情や欲求のコントロールができない。やる気が起きない。人柄が変わってしまう。

障がい特性【発達障害】

種類	特性
知的障害（知的能力障害）	・ 知的機能の水準で日常生活への適応に困難がある状態・ 読み書きや社会的スキル、身辺自立などの困難さで、重症度を判断
自閉スペクトラム症（ASD）	・ 言葉や視線、表情、身振りなどを用いたコミュニケーションが苦手・ 自分の気持ちを伝える、相手の気持ちを読み取ることが苦手・ 特定のことに強い関心をもつ・ こだわりが強い・ 感覚が過敏
注意欠如・多動症（ADHD）	・ 発達年齢から期待される水準と比べると、落ち着きがない、待てない、注意が持続しにくい
学習障害（限局性学習症、LD）	・ 全体的な知的発達には問題がない・ 特定の学習（読む、書く、計算するなど）のみに困難が認められる状態
発達性協調運動障害	・ 粗大運動および微細運動が不器用で、日常生活に支障が出ている状態
チック症	・ 思わず起こってしまう素早い身体の動きや発声・ リラックス時に起こりやすい・ さまざまな運動チックや音声チックが1年以上持続するのは、トゥレット症
吃音	・ 滑らかに話せない状態・ 体質的な要素が強い・ 就学前の吃音は数年の間に軽減することが多い一方、長期に持続する場合もある

- 1 神経発達症群／神経発達障害群
- 2 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群
- 3 双極性障害および関連障害群
- 4 抑うつ障害群
- 5 不安症群／不安障害群
- 6 強迫症および関連症群／強迫性障害および関連障害群
- 7 心的外傷およびストレス因関連障害群
- 8 解離症群／解離性障害群 などなど

1 神経発達症群／神経発達障害群

【知的能力障害群】

【コミュニケーション症群／コミュニケーション障害群】

言語症／言語障害・語音症／語音障害・小児期発症流暢症／小児期発症流暢障害（吃音）

社会的（語用論的）コミュニケーション症／社会的（語用論的）コミュニケーション障害

特定不能のコミュニケーション症／特定不能のコミュニケーション障害

【自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害】

【注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害】

【限局性学習症／限局性学習障害】

【運動症群／運動障害群】

【チック症群／チック障害群】

トゥレット症／トゥレット障害・持続性（慢性）運動または音声チック症／ 持続性（慢性）運動

または音声チック障害・暫定的チック症／暫定的チック障害・他の特定されるチック症／他の特定される

チック障害特定不能のチック症／特定不能のチック障害

【他の神経発達症群／他の神経発達障害群】

それぞれの障害の特性

知的な遅れを
伴うことも
あります

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、
こだわり

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、
興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」
等の能力が、全体的な知的発達
に比べて極端に苦手

※このほか、トゥレット症候群や吃音（症）なども
発達障害に含まれます。

ASD



A. 複数の状況で社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥

- (1) 相互の対人的・情緒的関係の欠落
- (2) 対人的相互反応で非言語コミュニケーション行動を用いることの欠陥
- (3) 人間関係を発展させ、維持し、それを理解することの欠陥

B. 行動、興味、または活動の限定された反復的な様式で、現在または病歴によって、以下の少なくとも2つにより明らかになる（以下の例は一例であり、網羅したものではない）

- (1) 常同的または反復的な身体の運動、物の使用、または会話
- (2) 同一性への固執、習慣へのかたくななこだわり、または言語的・非言語的な儀式的行動様式
- (3) 強度または対象において異常なほど、きわめて限定され執着する興味
- (4) 感覚刺激に対する過敏さまたは鈍感さ、または環境の感覚的側面に対する並外れた興味

C. 症状は発達早期に存在していなければならない（しかし社会的要求が能力の限界を超えるまで症状は明らかにならないかもしれないし、その後の生活で学んだ対応の仕方によって隠されている場合もある）。

D. その症状は、社会的、職業的、または他の重要な領域における現在の機能に臨床的に意味のある障害を引き起こしている。

E. これらの障害は、知的能力障害（知的発達症）または全般的発達遅延ではうまく説明できない。知的能力障害と自閉スペクトラム症はしばしば同時に起こり、自閉スペクトラム症と知的能力障害の併存の診断を下すためには、社会的コミュニケーションが全般的な発達の水準から期待されるものより下回っていないなければならない。

ADHD



**A 1 : 以下の不注意症状が6つ（17歳以上では5つ）以上あり、
6ヶ月以上にわたって持続している。**

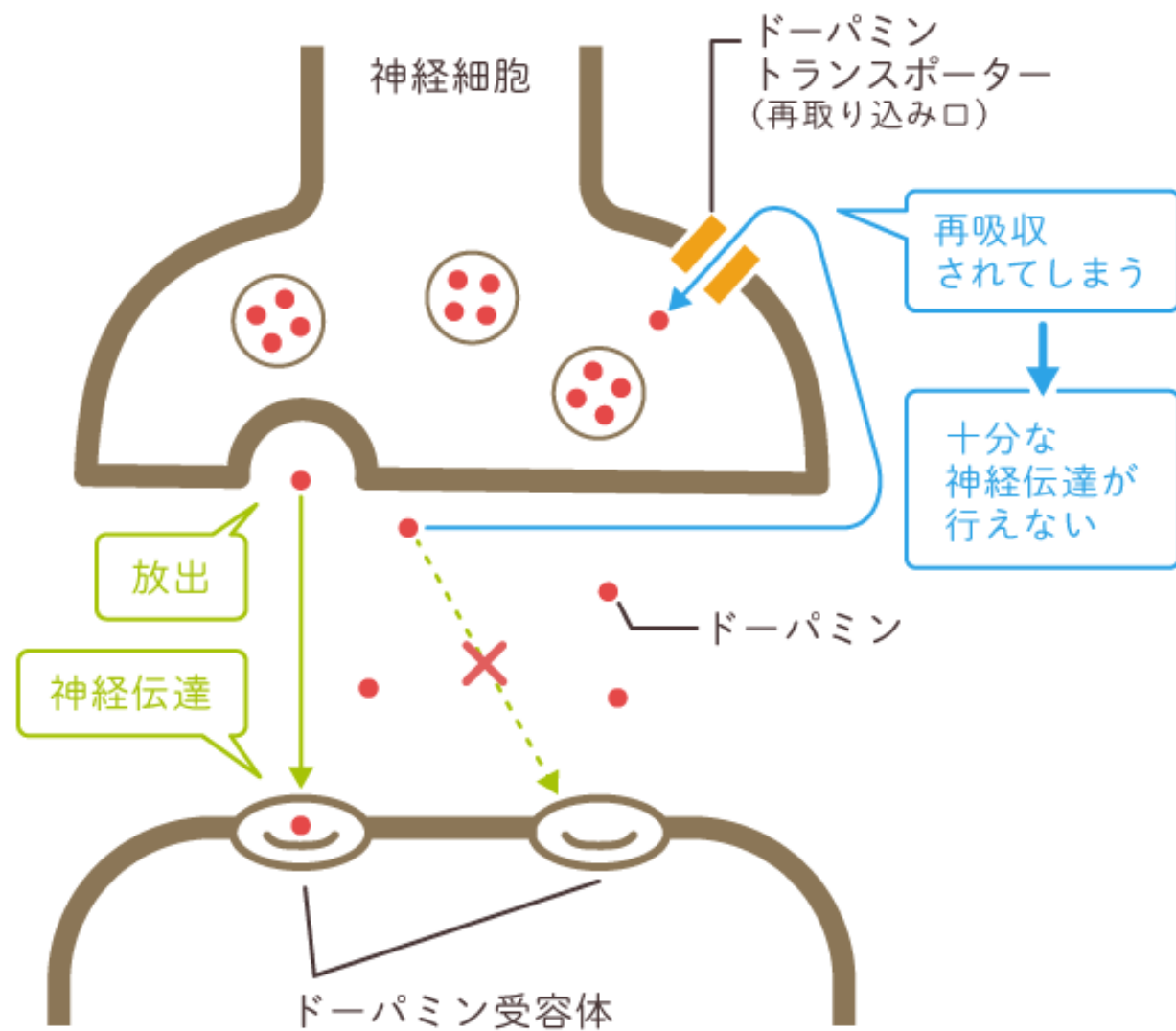
- a. 細やかな注意ができず、ケアレスミスをしやすい。**
- b. 注意を持続することが困難。**
- c. 上の空や注意散漫で、話をきちんと聞けないように見える。**
- d. 指示に従えず、宿題などの課題が果たせない。**
- e. 課題や活動を整理することができない。**
- f. 精神的努力の持続が必要な課題を嫌う。**
- g. 課題や活動に必要なものを忘れがちである。**
- h. 外部からの刺激で注意散漫となりやすい。**
- i. 日々の活動を忘れがちである。**

A 2 : 以下の多動性/衝動性の症状が6つ（17歳以上では5つ）以上あり、6ヶ月以上にわたって持続している。

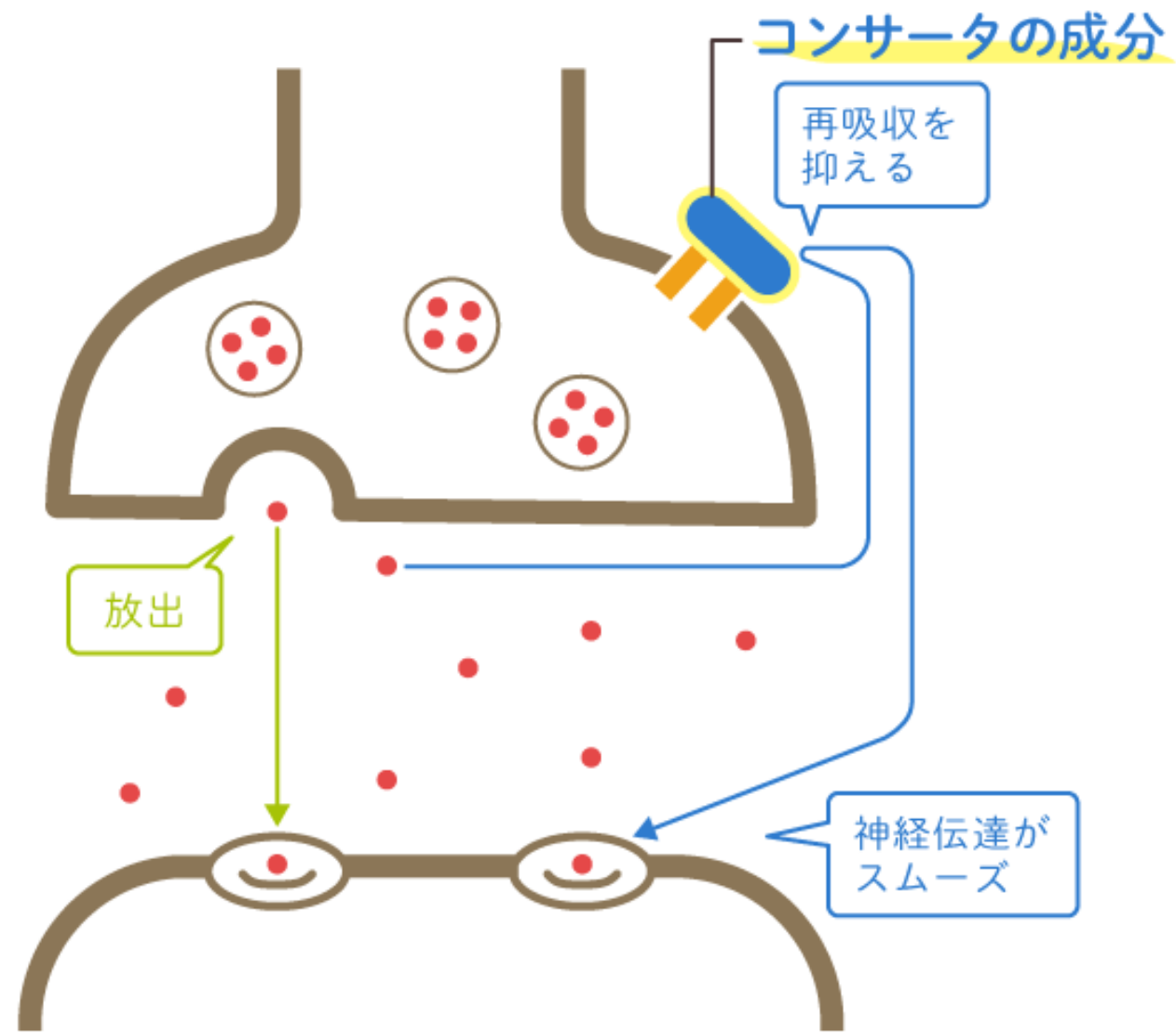
- a.着席中に、手足をもじもじしたり、そわそわした動きをする。
- b.着席が期待されている場面で離席する。
- c.不適切な状況で走り回ったりよじ登ったりする。
- d.静かに遊んだり余暇を過ごすことができない。
- e.衝動に駆られて突き動かされるような感じがして、じっとしていることができない。
- f.しゃべりすぎる。
- g.質問が終わる前にうっかり答え始める。
- h.順番待ちが苦手である。
- i.他の人の邪魔をしたり、割り込んだりする。

- B : 不注意、多動性/衝動性の症状のいくつかは12歳までに存在していた。
- C : 不注意、多動性/衝動性の症状のいくつかは2つ以上の環境（家庭・学校・職場・社交場面など）で存在している。
- D : 症状が社会・学業・職業機能を損ねている
明らかな証拠がある。
- E : 統合失調症や他の精神障害の経過で生じたのではなく、それらで説明することもできない

神経伝達がうまく働かない仕組み



コンサータの作用



なぜ不適切行動が起きるのか？



LD



A.学習や学業的技能の使用に困難があり、その困難を対象とした介入が提供されているにもかかわらず、以下の症状の少なくとも1つが存在し、少なくとも6ヶ月間持続していることで明らかになる:

- (1)不的確または速度が遅く、努力を要する読字(例:単語を間違っただけでまたゆっくりとためらいがちに音読する、しばしば言葉を当てずっぽうに言う、言葉を発音することの困難さをもつ)
- (2)読んでいるものの意味を理解することの困難さ(例:文章を正確に読む場合があるが、読んでいるもののつながり、関係、意味するもの、またはより深い意味を理解していないかもしれない)
- (3)綴字の困難さ(例:母音や子音を付け加えたり、入れ忘れたり、置き換えたりするかもしれない)
- (4)書字表出の困難さ(例:文章の中で複数の文法または句読点の間違いをする、段落のまとめ方が下手、思考の書字表出に明確さが無い)
- (5)数字の概念、数値、または計算を習得することの困難さ(例:数字、その大小、および関係の理解に乏しい、1桁の足し算を行うのに同級生がやるように数字的事実を思い浮かべるのではなく指を折って数える、算術計算の途中で迷ってしまい方法を変更するかもしれない)
- (6) 数学的推論の困難さ(例:定量的問題を解くために、数学的概念、数学的事実、または数学的方法を適用することが非常に困難である)

B.欠陥のある学業的技能は、その人の暦年齢に期待されるよりも、著明にかつ定量的に低く、学業または職業遂行能力、または日常生活活動に意味のある障害を引き起こしており、個別施行の標準化された到達尺度および総合的な臨床消化で確認されている。17歳以上の人においては、確認された学習困難の経歴は標準化された評価の代わりにしてよいかもしれない。

C.学習困難は学齢期に始まるが、欠陥のある学業的技能に対する要求が、その人の限られた能力を超えるまでは完全には明らかにはならないかもしれない(例:時間制限のある試験、厳しい締め切り期間内に長く複雑な報告書を読んだり書いたりすること、過度に思い学業的負荷)。

D.学習困難は知的能力障害群、非矯正視力または聴力、他の精神または精神疾患、心理社会的逆境、学業的指導に用いる言語の習熟度不足、または不適切な教育的指導によってはうまく説明されない。

状況を把握しましょう

【状況に関わる情報を集める】

- 生じている支障は何か？の把握
- 障害特性やスキルを確認する
例）苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと
- それは「苦手」なのか「苦手意識」なのかの見極め

【できているとき・できていないときの環境を詳しく見る】

- 問題が生じた前後の状況を整理する
例）機能的アセスメント（機能分析、ABC分析）

「苦手」の場合

【読字障害で考えられる要素】

- ・ 文字の視覚情報としての受信
- ・ 文字認識の記憶量や保持時間
- ・ 文字情報のことばとしての意味理解
- ・ 読み取ったことの講音音声としての変換
- ・ 講音機能の不具合

「苦手」の場合

【書字障害で考えられる要素】

- ・ 書こうとしている文字と正しい文字の認知のずれ
- ・ 文字認識と手の協応性の不具合
- ・ 文章作成力・構想力・組み立て力の力量不足
- ・ 文字認識の記憶量や保持時間の不足
- ・ 文章表現力（表出）の不足

「苦手」の場合

【算数障害で考えられる要素】

- ・ 数概念・量概念・図形概念理解の不足
- ・ 数学的な考え方（論理的 統合的 発展的）の不足
視点 情報整理 イメージ モデル プロセス分解・統合
- ・ 計算技能の技術不足
- ・ 文字認識の記憶量や保持時間の不足
- ・ 文章表現力（表出）の不足

「苦手意識」の場合

※ 苦手意識の取り扱い ① 避ける OR ② 向かう

【苦手意識を克服する方法】

「未知のものへの恐怖心」 OR 「過去のネガティブ体験」

- ・ 自分にとってプラスを考える
- ・ ハードルを下げる
- ・ やらざるを得ない環境に身を置く
- ・ （得意な）人と一緒に行動する
- ・ メタ認知しながら取り組む

DCD



DCD（発達性協調運動症／Developmental Coordination Disorder）は、手足など身体の動きをコントロールして行う協調運動が年齢相応に行うことができず、日常生活活動に支障が出る場合に診断されます。

運動技能の欠如、知的障害（知的発達症）や視力障害、神経疾患などでは説明できないことを確認したうえで鑑別します。

例えば、物をつかんだり、はさみや鉛筆などの道具を使うことが不正確である、書字に困難が生じるといったものが、日常生活活動に困難さを与えている状態です。

DCDの子どもたちによくみられる症状

乳児期

ミルクで
むせやすい

寝返りができるよう
になるのが遅い

ハイハイが
ぎこちない

幼児期

言葉が不明瞭で
聞き取りにくい

スプーンや
コップが
うまく使えない

階段がうまく
上れない

塗り絵が
うまくできない

ハサミが
うまく使えない

よく転ぶ

遊びのペースに
ついていけない

ボタンをとめられない
着替えができない

ブランコなどの
遊具で遊べない

学童期

文字がうまく
書けない

道具（定規・コンパス
など）をうまく使えない

ボールをコント
ロールできない

ページがうまく
めくれない

楽器がうまく
使えない

鉄棒やなわとびが
できない

板書を写すのが
遅い

靴ひもが
結べない

陸上競技や水泳が
うまくできない